

こちらもオススメです



『ブレイクショットの軌跡』

逢坂冬馬／著（早川書房）

◇終盤の伏線回収に、脱帽すること間違いなし。高校生の今だからこそ、多角的な視点に触れてほしいです。

『恋とか愛とかやさしさなら』

一穂ミチ／著（小学館）

◇すっきりとする説明も解釈も提示されないまま、主人公と共に信じること、許すこと、愛することについて考えさせられる苦い小説。表題作の続編「恋とか愛とかやさしさより」にわずかな救済が描かれています。

『救われてんじゃねえよ』

上村裕香／著（新潮社）

◇読むのがしんどくなる話でしたが、辛い中にも小さな幸せやきらめきが見えて、どんどん次が読みたくなる本でした。ヤングケアラーのことを漠然とは知っていたものの、現実はいかに厳しいのかということを深く考えさせられます。

『銀河の図書室』

名取佐和子／著（実業之日本社）

◇突然、学校へ来なくなってしまった「イーハトー部」部長の風見。宮沢賢治の作品を手掛かりにその理由を探ろうとする部員たち。それぞれの立場で「自分ならどうするべきだったのか」を考えさせられる作品。

イチオシ！ぎふと本とは

岐阜県の学校司書や司書教諭が、2024年7月～2025年6月に出版された本の中から、高校生の皆さんに読んでほしい、ぜひ手に取ってほしい本を投票で選びました。



こちらで紹介しきれなかったイチオシ！
ぎふと本は、本のレビューサイト
「ブグログ」でご覧いただけます。



Webサイト: <https://booklog.jp/users/gifu1osibon>

こちらもオススメです

『藍を継ぐ海』

伊与原新／著（新潮社）

◇大切な何かを「受け継ぐ」人々の5つの物語。技術を、夢を、命を、想いを、つないでまた次へと伝えていく。そんな長い歴史の一ページに私たちはいるんだなあと、しみじみと感じさせてくれる作品でした。

『生きる言葉』

俵万智／著（新潮社）

◇言葉で伝えるって難しい！でも、だからこそ、その力を感じて使いたい。笑えて、ほう...と納得し、ジーンと胸に響く。字ばかりだから難しい！と読まずにいるのはもったいない一冊です。

○ゴデザイン：井上瑠香（岐阜県立岐阜商業高等学校卒）



2025
イチオシ！ぎふと本
岐阜の学校図書館員が
選んだ本



岐阜県高等学校教育研究会
図書館部会学校司書部 岐阜北地区



イチオシ! ぎふと本

岐阜の学校図書館員が 選んだ本

2025

大賞



『謎の香りはパン屋から』

土屋うさぎ／著（宝島社）

土屋うさぎさんからのコメント

この度は「イチオシ! ぎふと本」大賞に選んでいただき、誠にありがとうございます。

皆さんは米派ですか、パン派ですか？

この小説は大阪のパン屋を舞台にした、日常に潜む謎を解き明かすミステリーです。殺人事件は起こらないし名探偵も登場しない。代わりに、温かな出会いと焼きたてのパンの香りが溢れています。読めば貴方も、明日の朝にパンが食べたくなるはず。

そんな『謎の香りはパン屋から』をお楽しみいただけたら幸いです。

投票者からのコメント

◇図書館員としては「食べながら図書館の本を読む」ことはおススメしたくないのですが、思わず作中のパンを片手に謎解きをしたくなるのが悩ましいところです。

◇ミステリーと言っても日常の些細なことで、パン屋のほんわかした空気感がいいです。

◇登場人物たちが持つ「弱点・欠点」が話のカギを握る。青春小説としても、ミステリーとしても楽しめます。

2位

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴／著（小学館）

◇言葉を持つのは、本当に人間だけなのでしょうか。動物言語学者が、愛すべきシジュウカラの生態を通して、その謎に迫ります。何かを成し遂げるためには、地道な努力と諦めない心が必要であることを教えてくれる一冊です。



2位

『本を読んだことがない32歳が
はじめて本を読む』

かまど、みくのしん／著（大和書房）

◇まさか『走れメロス』で、こんなに笑うことになるなんて。そんな驚きと発見に満ちた本です。

◇知っているはずの話がこんなにも楽しく読める！読み始めたら止まらない、なんとも新鮮な読書体験ができました。



4位

『その本はまだルリユール
されていない』

坂本葵／著（平凡社）

◇司法書士の夢を諦め、小学校の学校司書として働き始めた主人公が、「ルリユール工房」で出会った人々とともに、傷ついた人生を少しずつ立て直していく物語。静かに心を癒してくれる、優しさに満ちた世界です。